

1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.193**  
**空手の発祥を伝え、真髓を学ぶ**  
沖縄空手会館

5 **地域リレーションシップ情報 187**  
**沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について**  
**令和元年度内閣府沖縄型産業中核人材育成事業**  
**沖縄リゾートウェディング中核人材育成事業**

7 **おきぎんマーケティングレポート**  
**第79回おきぎん企業動向調査**  
**(2020年1～3月期)調査結果**  
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感～

16 **けいざい風水**

20 **おきぎんカトレアクラブ通信**

22 **県内景況・確報**  
2020年1月の県内景況

30 **国内景気動向**

32 **沖縄マーケティング情報**  
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数  
②世界の中の沖縄(年次)  
③グラフでみる沖縄経済  
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

52 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)  
2020年2月



表紙写真/カンムリワシ

# 空手の発祥を伝え、 真髓を学ぶ

## 沖縄空手会館



沖縄は空手発祥の地であり、長い時を経て生まれた沖縄の空手は今、世界へと広がり、東京五輪の正式種目に採用されるまでに発展しました。今回は、沖縄空手のシンボルとして2017年3月に開館した沖縄空手会館へ（一財）沖縄観光コンベンションビューローの屋良 朝治アドバイザーに空手会館の役割や施設の特徴などについてお話を伺って参りました。

### 空手は沖縄の誇る伝統文化

琉球は世紀の昔から近隣諸国との交易・交流を盛んに行い、魅力あふれる伝統文化を築いてきました。

このような歴史的・文化的背景の中で、「空手」はこの地・沖縄で生まれ、厳しい修練を通して強靱な身体と不屈の精神を培うとともに、平和を愛し、礼節を重んじる人格形成に貢献する武道として受け継がれてきました。

空手は沖縄の誇る伝統文化であり、大切に受け継がれています。現在、県内約400の道場で継承されており、沖縄空手のシンボルとして沖縄空手会館が2017年3月に開館しました。

### 空手の発祥を伝え、真髓を学ぶ

「空手」は沖縄を発祥地として、今や世界中に愛好家がいるといわれています。沖縄空手を独自の文化として保存・継承・発展させるとともに、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信し、空手の真髓を学ぶ拠点として、沖縄空手会館には、6つの役割があります。



▲沖縄空手会館の6つの役割

国内外の空手関係者とともに、空手の経験のない方や観光客のみなさまにも楽しんでいただける施設となっています。

### 沖縄本土復帰40周年記念事業の一環として 構想がスタート

沖縄本土復帰40周年記念事業の一環として構想がスタートし、旧豊見城城址公園跡地の一角、約12,000坪の敷地に道場施設、展示施設、特別道場、屋外鍛錬場、駐車場などが整備されています。

沖縄空手会館は、単に空手の演武を行う施設とは異なり、沖縄が空手発祥の地であることを世界へ発信するための拠点施設として、「品格」や「威厳」を備えて整備されています。

施設には県民に親しみのある「琉球石灰岩」を多用することで沖縄らしさを表現し、時の経過とともに周辺の自然や景観に溶け込むデザインとなっています。



▲グスクが持つ力強いイメージを表現した石張りPC板



## 2. 展示施設 (9:00~18:00)

空手家から一般の方までお楽しみいただける、エンターテインメント性を備えた「資料室(有料)」を中心に、空手関連の限定グッズなどを販売するショップや、飲食スペースを備えた施設です。

### ① 資料室(有料)

沖縄空手に関する展示をしています。空手家を対象とした専門的な情報から、初心者・一般に向けたコンテンツまで幅広く展示しています。

空手の体験コーナーや映像シアターもあり、気軽に空手について知ることができます。(約546坪)



▲鍛錬具のひとつである鉄下駄を体験できます。

### ② ショップ



ここでしか買えないオリジナルグッズなどを販売しています。

### ③ レストラン そば処手「てい」



購入・飲食できるスペースとなっています。

### ④ 情報発信・AVコーナー



沖縄空手会館や沖縄県ホームページ等、沖縄の様々な情報を無料で検索できます。

### ⑤ 資料閲覧室



空手に関する約4,500冊の書籍や雑誌を無料でご覧いただけます。

## 3. その他施設

空手発祥地であることをシンボリックに表した「特別道場(守禮之館)」を中心に、特別道場前庭や、屋外鍛錬場がある施設エリアです。

### ① 特別道場(守禮之館)

外壁は、沖縄の伝統色である首里城と同じ色のベンガラ色を採用しており、屋根瓦においても首里城と同じ文様を採用し、空手の発祥地であることを顕示した格式高い道場となっています。

一般の利用とは区別し、高段者の昇段試験や空手の日の奉納演武などで使用しています。(約28坪)

この特別道場は、唯一、お金を頂いても貸せない施設であり、「いつかはここで空手の演武をやりたい」という、聖地の中の聖地に昇華させています。



## ② 屋外鍛錬場

道場施設と展示施設の中間に位置した広場です。空手の催事はもちろん、空手以外にも地元のイベントやMICEのパーティー会場などで活用することができます。

沖縄は基本的にMICE会場としては優位性があります。国際会議というと東京や横浜が強いのですが、沖縄の場合、報奨旅行などのインセンティブツアーが強く、人気があります。



## ③ 駐車場

普通車100台・大型バス4台の駐車が可能となっています。

2ヵ年以内には空手会館の隣に県の「おきなわ工芸の杜」が完成する予定であり、また周辺には約500台止められる駐車場が完成します。



## 空手に興味を持つ県内外・海外の皆様をサポート

2017年5月に、沖縄空手会館内に沖縄空手案内センターが設置されました。

その目的は、空手に興味を持つ県内外・海外の皆様をサポートすることです。沖縄空手に関する情報を県内外、国外に多言語で発信しています。

主な業務は、①沖縄空手・古武道に関する問い合わせの対応、②国内外の空手家と町道場のコーディネート、③県内宿泊先等の紹介、④県内外空手行事、道場、海外空手団体の情報交換などを行っています。

空手は、今や世界190以上の国や地域に普及し、空手愛好家は1億人を超えるといわれています。

県の調査では、世界各国から流派の源流を訪ねて、2018年は7,000人以上の外国人が訪れています。

また、沖縄空手案内センターの調査では、訪れる外国人の特徴として、1人から5人の小グループで訪れ、平均滞在期間は11日、4月から10月がオンシーズン、平均支出額（渡航費を除く）は15万円となっています。



▲案内センター広報担当のダルーズさんと屋良アドバイザー

## 「負けない心！精神を鍛え、内面を強くする」、 「生きる力を育む」空手体験プログラム

沖縄空手会館では、「空手発祥の地・沖縄」を唯一無二のブランド化し、その認知度を高める中、空手交流拠点施設として世界中からの「空手ツーリズム」の普及を目指しています。

また、沖縄空手を沖縄独自の文化・観光資源として捉えており、「空手経験者」のみならず、県内小中学校の校外学習や、自治会社会見学、社員旅行など多くの見学者が訪れています。

特に、「負けない心！精神を鍛え、内面を強くする」、「生きる力を育む」空手体験プログラムは高い評価を得ており、インセンティブツアーやMICE、教育旅行の体験プログラムに十分役立つプログラムと考えています。

# けいざい風水

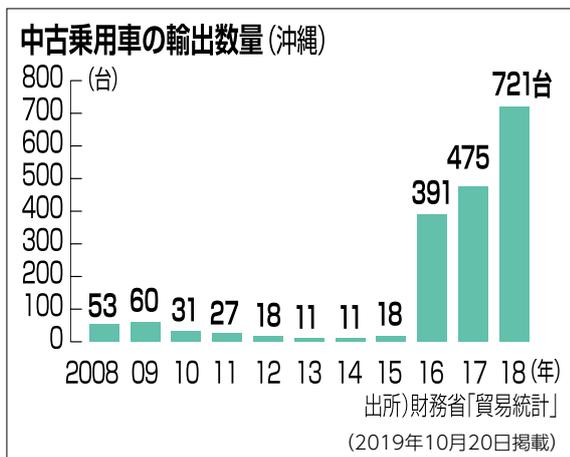
## ● 県内中古車の輸出動向 台数、3桁台で推移

本県では、国際物流拠点の形成へ向けたさまざまな施策が展開されています。その一環として、数年前に県による中古車輸出ビジネスモデル実証事業などを通じて、ビジネス拡大・継続性の可能性を探るべく、県内各地では民間事業者による取り組みが進められています。那覇港のみならず、中城港でも自動車専用船などの大型船が寄航するなど、中古乗用車の輸出が行われました。

財務省から公表されている貿易統計を用いて、県内の中古乗用車の輸出動向を見ると、台数が3桁台で推移しており、継続的に伸びています。ちなみに2018年は台数が721台、輸出金額が約7億円に達しています。主な輸出先としてはスリランカが大部分を占めており、次いでパキスタンやカメルーンなどとなっています。さらに各国・地域における1台当たりの輸出金額を算出してみると、スリランカが100万円程度、パキスタンが60万円程度、カメルーンが20万円程度となっています。これらは現地でのニーズに加えて、輸出国・地域における各種規制や政策的な動きなどで左右されることもあります。マーケットを見る上で大まかな目安として捉えることができます。

今後、中長期的な視点において、産業の重点として県内に根付かせるためには、マーケットニーズを踏まえつつ、中古車両のみならずその他の関連部品なども含めて、輸出資源のポテンシャルを最大限に顕在化させるよう、既存ビジネスに対してもシナジー（ヨコ展開）が動くような仕組みづくりが求められます。

(おきぎん経済研究所 研究員 當銘 栄一)



## ● 2100年の世界人口 「アフラシア」の時代に

国連から最新の世界人口推計が公表されました。今後100年間の人口の推移についてケース別にシナリオ予測を立てており、標準推計ケースによると、世界人口は2019年の77億人から2030年に85億人、2050年には97億人、2100年には109億人に達すると予測されています。最新の経済社会情勢を反映した推計結果は、サブサハラ・アフリカの人口が2050年までに倍増すると見込んでおり、アフリカの経済成長を反映した結果となっています。

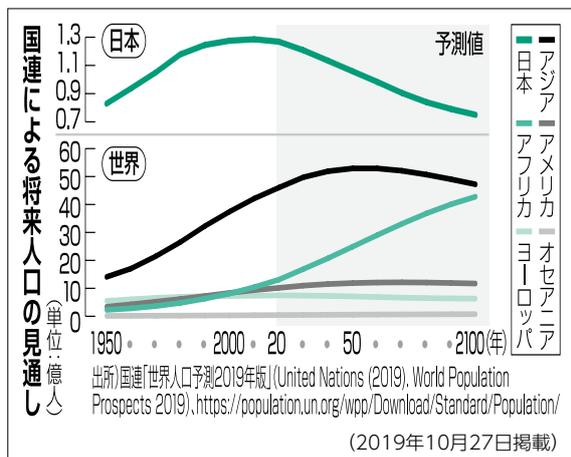
20世紀後半から現在まで、日本をはじめ、シンガポール、韓国、台湾、香港のNIEs諸国諸地域、そして中国、インド、ASEAN諸国などアジア圏の経済発展が世界経済をリードしてきました。これら諸国に共通しているのは急激な経済成長の後に、出生率の低下や社会保障財源の懸念など人口増加にブレーキをかける要因が増大する傾向にあるということです。

その一方で、21世紀後半がアフリカの世紀になるという予想は、世界の人口の重心が欧米からアジアを経てアフリカへとシフトすることが根拠になっているようです。2100年の世界人口はアジアが4割、アフリカが4割となり、世界人口の8割がこの2地域に分布します。

このような世界を同志社大学の峯陽一教授は、アフリカとユーラシア大陸アジアを合わせた「アフラシアの時代」と呼んでいます。

私たちの子や孫の世代では留学先やビジネスの場としてアフリカ諸国の優先度が高まっているかもしれません。

(おきぎん経済研究所 研究員 奥平 均)



## コーポレート・ガバナンス より良い経営のために

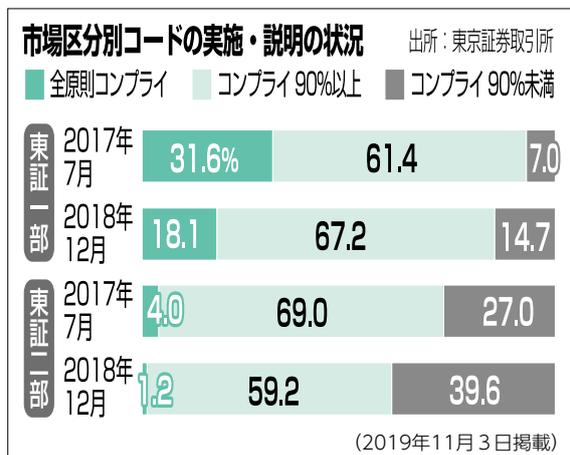
米国のベンチャー企業の株式上場延期が話題になっています。ビジネスモデルや、企業価値評価の問題も指摘されていますが、代表者への権限集中など、経営体制の問題もあるようです。

企業経営者は株主から会社の経営を任されているとされており、企業には経営者の暴走や倫理逸脱を防ぐ規律付けが求められています。国内では2015年に上場企業が守るべき行動規範を示した企業統治の指針、コーポレート・ガバナンス・コードが策定されました。この中でコーポレート・ガバナンスは「会社が、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等の立場を踏まえた上で、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組み」と定義されています。

同コードは「株主の権利・平等性の確保」「株主以外のステークホルダー（利害関係者）との適切な協働」「適切な情報開示と透明性の確保」「取締役会等の責務」「株主との対話」といった五つの基本原則を柱に、全78原則から構成されています。一律に義務付けるものではないものの「コンプライ・オア・エクスプレイン」として、何らかの事由でそれを実施（コンプライ）しない場合は、理由を説明（エクスプレイン）することが求められます。

東京証券取引所によると、18年のコード実施状況は、同年にコードの新設・改訂があったこともあり、前年に比べ実施より説明を増やした企業も見られるようですが、より良い経営のための仕組みづくりと認識し、形式的な実施より、各社の事情を踏まえた慎重な検討と質の高い説明、対話が期待されています。

（おきぎん経済研究所 主任研究員 仲本 功）



## Society5.0 経済発展と社会的課題解決

2000年の九州・沖縄サミットで採択された「グローバルな情報社会に関する沖縄憲章」をご存じでしょうか。「情報通信技術（IT）は、21世紀を形作る最強の力の一つである」で始まるその憲章は、ITが提供する機会の活用を促し、情報格差の解消など進むべき道を指し示しています。約20年近くたった現在、当時の日本では生まれていなかったソーシャルネットワークサービス（SNS）を多くの人々が利用するようになり、スマートフォンの活用で日常生活は目に見えて大きく変わりつつあります。またクラウドコンピューティングに象徴されるサイバー空間ではデータ集積量の飛躍的増加など目に見える以上の指数関数的発展を遂げています。

このような変革の中、わが国では、経済発展と社会的課題の解決を両立する目指すべき未来社会の姿を「Society5.0」と位置付け、狩猟社会（同1.0）、農耕社会（同2.0）、工業社会（同3.0）、情報社会（同4.0）に続く新たな社会の実現を目指しています。

沖縄でも、リーディング産業である観光産業においては入域観光客数の好調な推移が確認できるものの、観光客1人当たり消費額の伸び悩みへの対策がさらなる発展に必要とされています。また、社会的には首里城の復元や子供の貧困といった課題の解決が求められています。

沖縄憲章で示された積極的なIT活用と情報格差解消への取り組みを進め、デジタル技術を活用した「Society5.0」を実現することが、持続可能なさらなる発展の鍵となるものと思われます。

（沖縄銀行 与儀支店長 山城 斉一）



## 投資マネーの潮流変化 持続可能な社会、実現へ

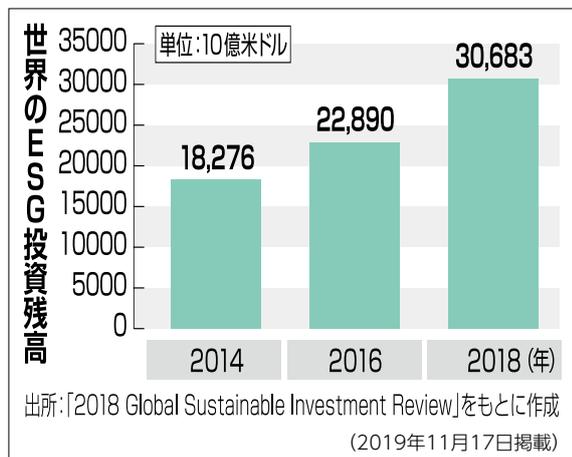
毎年のように台風や豪雨による甚大な被害が発生する中、地球温暖化をはじめとする環境問題が大きく注目されています。9月に開催された国連地球温暖化サミットで、16歳の環境活動家グレタ・トゥンベリさんが「絶滅の始まりに直面しているのに、あなたたちはお金や永久の経済成長という信じられない話ばかりだ」と参加した各国首脳らに憤りをあらわにしたスピーチは、マスコミでも大きく取り上げられ話題となりました。

こうした中、投資の世界でもこれまでの経済的リターンの最大化を目指したマネーの流れが大きく変わりつつあります。新聞等で「ESG投資」というワードを目にしたことはあるでしょうか。E（環境…環境に配慮）、S（社会…社会貢献）、G（ガバナンス…収益を確保しつつ、不祥事を防ぐ経営）の三つのキーワードに着目した投資手法です。

足元では世界の投資資金の4分の1超がESG投資関連という報告もあるなど、投資の本流に位置するまでに成長してきています。

そして資金供給者である投資家の変化に伴い、資金需要者である企業の経営にも変化が表れています。SDGsに代表されるように、企業が環境問題、社会貢献、ガバナンス強化等に積極的に取り組むことが新たなイノベーションの創出や企業価値向上につながるという意識の台頭です。これまでの経済モデルでは外部不経済（環境問題、貧困等の社会問題）として、その解決には政府の関与が必要とされていた諸問題が、経済活動の中で解決に向けた取り組みがなされていくという、持続可能な社会の実現に向けた動きが広がり始めています。

（沖縄銀行 首里支店長 宮城 毅）



## 恩納村とリゾートウエディング 「愛の村」PRへ協議会

恩納村出身の有名な歌人恩納ナビーは「恩納岳あがた 里が生まれ島 森んうし除きてい くがたな さな」と、山を押しつけてまで恋人と逢いたいとの恋心を詠ったそうです。このように恩納村は古くから、その自然環境もあり出逢いと愛を育む地なのです。

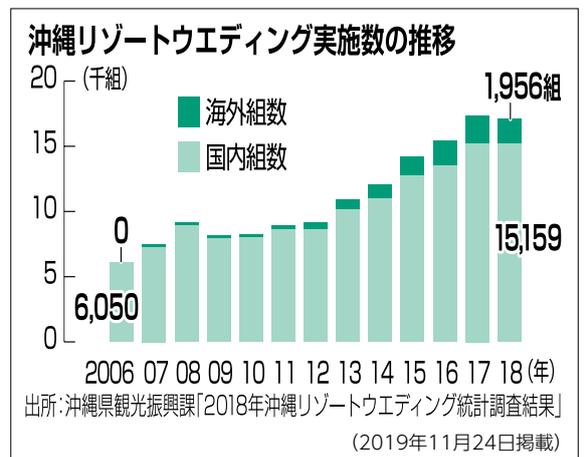
沖縄県では、2018年に海外組を含め1万7,115組のリゾートウエディングが執り行われています。恩納村でも19年から沖縄リゾートウエディング活性化協議会（構成・恩納村、恩納村観光協会、沖縄リゾートウエディング協会ほか）が発足し、地域経済牽引事業の促進を図ろうとリゾートウエディング業者と恩納村の地場産業を活用し、リゾートウエディングタウンとしての基盤づくりが始まっています。

同協議会の活動として「愛を誓う、はじまりは恩納村」と銘打って、ウエルカムドリンクやギフトの開発、撮影スポットの整備など、3年計画で恩納村全体でのリゾートウエディング事業の活性化を図ります。

先日、おんなの駅にて恩納村観光協会主催による「恩納村から愛を叫ぼう2019」が開催されました。事前申し込みと飛び入りを合わせた11人が、愛する人に熱い思いを込めた言葉や歌で愛を伝えるイベントです。皆さまは日頃から身近な大事な人へ言葉で愛を伝えていますか？ 奥手でシャイなウチナンチュは、苦手な方も多いのではないのでしょうか。

かくいう私も日頃なかなか言えない感謝や思いを言葉にし、このイベントにて妻へ愛を叫びました。皆さまも恩納ナビーのように、恩納村から愛を伝えてみてみませんか？

（沖縄銀行 恩納支店長 仲本 透）



目次へ